

JA自己改革ニュース

2023.1.12

自己改革
実践
サイクル編

No.7

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan（計画）→Do（実行）→Check（確認）→Act（改善）の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



福岡県 JA福岡市

徹底した対話を通じ組合員の意思を反映

P

JA福岡市では、訪問活動や集落座談会を通じた「担い手との対話」を原点としたニーズ把握や、共販部会員をはじめ幅広い農家組合員や次世代層の意思反映等のため、訪問・対話活動に力を入れています。自己改革実践プランにおいては、農業者の所得増大・農業生産の拡大に向け、農産物販売機能の強化、なかでも直売所での売上高を増やすことにより、農業所得の向上をめざしており、22年度は直売所売上高の目標を14.5億円としています。

D

2021年12月に、「直営直売所博多じょうもんさん花畑市場」をオープンしました。新たなコンセプトとして、新鮮な農産物はもちろん、精肉鮮魚テナントやJAオリジナルパン・総菜などによる品ぞろえを充実させ、営業時間を午後8時までに延長するなど、直売所売上高の増大に取り組んでいます。その結果、22年9月末現在の直売所売上高実績は7.19億円となり、前年同期の4.61億円を大幅に上回っています。

C



「販売事業の強化による農業所得の向上」における「農業者支援体制の充実」として位置付けているJA福岡市のTAC訪問活動

A

今後とも、組合員との重層的な対話活動を行い、それらを事業活動に反映させながら、自己改革の実践を進めていきます。

自己改革の実践にあたっては、支店長による「正組合員全戸訪問活動」をはじめ、改革の評価の把握に向けた正組合員との対話や集落座談会等を実施しています。

また、准組合員に対しては懇談会を実施しており、22年11月末時点で15支店が開催し、そのうち役員が9支店に参加し直接対話を行うなど、正組合員と准組合員が一体となったJA運営に取り組んでいます。

組合員からは農産物販売機能、とりわけ

直売所に対する意見を頂いています。具体的には地区別説明会や次世代総点検運動の際に、直売所会員の出荷量を増やしてほしいという要望が出されています。JAでは共販部会に属していない組合員農家宅も訪問し、直売所への出荷の声掛けも行っています。また、准組合員懇談会でも直売所に関していただいた要望をふまえ、農産物や総菜等の品ぞろえ充実強化をはかりながら、魅力ある直売所作りを展開しています。

支店長による「正組合員全戸訪問戸数」		地区別説明会での役員との対話		次世代総点検運動の訪問件数	
2021年度実績	22年度計画 (実績集計は年度末)	2022年度計画	22年度実績 (11月末時点)	2022年度計画	22年度実績 (9月末時点)
2,927戸	4,348戸	22支店	22支店	3,435件	1,803件

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。